農学院修士論文発表会プログラム

２月１２日（金）

Ｓ２１　　９：００－１６：００　植物育種科学
（植物育種科学講座主任　三上　哲夫）

1. 9:30〜9:45　荒瀬　幸子（植物遺伝資源学）
植物成分の新規機能解明と成分含量の多様性の創出
2. 9:45〜10:00　大橋　栄美子（植物遺伝資源学）
子葉緑ダイズ品種の色素含量の品種間差とその遺伝解析
3. 10:00〜10:15　川崎　翔太（植物遺伝資源学）
ダイズ DDMP サポニンの糖転移に関する変異体の探索とその遺伝解析
4. 10:15〜10:30　柴田　雅之（植物遺伝資源学）
ダイズ貯蔵脂質の生合成にかかわる分子遺伝学的研究
5. 10:30〜10:45　塩飽　宏輔（植物育種学）
突然変異体を用いたイネ小穂の形態形成に関する遺伝解析
-小穂に栄養器官的特徴を示す変異体-
6. 10:45〜11:00　時園　佳朗（植物育種学）
イネの幼芽期および穂ばらみ期における低温抵抗性に関する遺伝育種学的研究
7. 11:00〜11:15　池ヶ谷　智仁（植物育種学）
イネの遠縁種間における生殖障壁を構成する雑種不稔遺伝子 *S13* の解析
8. 11:15〜11:30　植物育種学
氏名　荻野　篤史
論文タイトル　イネの生殖的隔離に寄与する雑種不稔性の遺伝学的解析
9. 11:30〜11:45　新屋　雄平（植物育種学）
アジア由来の栽培および野生イネ系統間で見出された交雑不親和性の解析
10. 11:45〜12:00　高須　温子（植物育種学）
イネの交雑によるトランスポゾン転移酵素遺伝子の発現変動に関する研究
11. 12:00〜12:15　浅野　真宏（植物育種学）
Tam3 離脱と遺伝変異の発生機構に関する研究

12. 13:30〜13:45　伊藤　友輔（遺伝子制御学）
Spinacia 属植物の類縁関係に関する研究
13. 13:45〜14:00　小野　克（遺伝子制御学）

テンサイ Owen 型細胞質雄性不稔の発現に関わる核遺伝子の発現解析

14. 14:00〜14:15　鏡　豊代（遺伝子制御学）
花粉稔性制御システム構築に向けた基礎的研究（仮）

15. 14:15〜14:30　松本拓真（遺伝子制御学）
テンサイおよび近縁種 Rf1 カウンターパートの比較による進化過程解明の試み

16. 14:30〜14:45　鈴木　翔多朗（植物病原学）
ジャガイモ M ウイルスの感染性転写産物の作製およびトマトにおけるジャガイモ S ウイルス抵抗性に関する研究

17. 14:45〜15:00　山田　翔太（植物病原学）
クローバ葉脈黄化ウイルスの病原性に関わる宿主因子に関する研究

18. 15:00〜15:15　井元勇介（細胞工学）
ダイズ種子成分に影響する遺伝子の発現制御に関する研究

Ｓ３１　９：００−１３：４０　作物生産生物学
（作物生産生物学講座主任　近藤　則夫）

1. 9:00〜 9:20　出口　哲久（作物学）
バレイショ根系の品種間差異が吸水特性に及ぼす影響

2. 9:20〜 9:40　佐藤　翼（作物学）
堆肥の種類が飼料用トウモロコシの地上部と地下部の生育および窒素吸収に及ぼす影響

3. 9:40〜10:00　Jonathan Djietror（作物学）
Genetic variability in root penetration ability　among old and new rice cultivars　bred　in Hokkaido, Japan

4. 10:00〜10:20　田中　将之（作物生理学）
ホウレンソウの抽だい阻害因子

5. 10:20〜10:40　太田　愛子（植物病理学）
アブラナ科緑肥作物チャガラシ利用によるジャガイモそうか病および黒あざ病の防除に関する研究

6. 10:40〜10:00　川上　直子（植物病理学）
ダイズ茎疫病に対するイソチオシアネートおよびアブラナ科チャガラシの抑制効果

7. 11:00〜11:20　水沼　花織（植物病理学）
日本産ジャガイモ疫病菌の遺伝子型と病原形質

8. 11:20〜11:40　二木　智（園芸学）
四季成り性品種を利用した夏秋どりイチゴの果実硬度に影響を及ぼす諸要因の解析

9. 11:40〜12:00　永井　翔大（園芸学）

ネギ属植物遺伝資源の香気前駆物質（ACSOs）組成に基づく評価及び組織培養を用いた栽培効率の向上

10. 13:00～13:20　木戸　重範（園芸学）

北海道に自生する山野草エゾワサビ（*Cardamine yezoensis* Maxim.）の栽培化と利用に関する基礎的研究

11. 13:20～13:40　垂石　さとみ（園芸学）

ロベリア *AGAMOUS* ホモログの特性解析および発現抑制による花型改変の試み

Ｎ１１　　９：００－１４：００　森林資源科学

（森林資源科学講座主任　小池　孝良）

1. 9:00～ 9:20　浦田　格　（造林学）

針葉樹人工林における根返り抵抗性と樹形の関係

2. 9:20～ 9:40　唐木　貴行（造林学）

ニセアカシア種子の吸水特性の経時変化と発芽条件
－解剖学的視点からの検討－

3. 9:40～10:00　野澤　友裕（造林学）

雌雄間の資源分配パターンの違いによるヤマグワの雌における繁殖コストの補償の可能性

4. 10:10～10:30　日向　潔美（造林学）

高 CO_2 と窒素付加環境が落葉広葉樹個葉の被食防衛物質の局在に与える影響

5. 10:30～10:50　丸上　裕史（造林学）

インドネシアの泥炭湿地に自生する造林樹種５種の湛水抵抗性と植栽適地への提言

6. 10:50～11:10　笠　小春（造林学）

蛇紋岩土壌に植栽したグイマツ雑種 F_1 の成長に与える窒素付加の影響

7. 11:30～11:50　井上　智之（森林化学）

道産材及びパームオイル廃棄物からの活性炭の調製とその機能化

8. 11:50～12:10　本間　春海（森林化学）

ポリエチレングリコール誘導体による単離リグニンの高機能化

9. 12:40～13:00　磯貝　操（森林資源生物学）

木材の酵素糖化における、褐色腐朽菌処理の効果について

10. 13:00～13:20　菅野　亘（森林資源生物学）

エゾマツ倒木更新初期における菌根にかかわる共生微生物相

11. 13:20～13:40　北川　学（森林資源生物学）

蛇紋岩土壌におけるアカエゾマツ更新初期の菌根相

12. 13:40～14:00　遠藤　圭太（資源植物創成学）

カラマツ冬芽の凍結適応機構に関する研究

Ｎ１１　１４：００－１７：２０　森林・緑地管理学
（森林・緑地管理学講座主任　柿沢　宏昭）

1. 14:00～14:20　岡本 哲志（流域砂防学）
   階段状河床地形に及ぼす流域出水特性の影響
2. 14:20～14:40　北山　雅（流域砂防学）
   非平衡自然河床における 50 年間の河床変動と網状流路の変化
3. 14:40～15:00　櫻井 圭祐（流域砂防学）
   山地河川における河床変動のスペクトル解析
4. 15:00～15:20　椎名 博之（森林政策学）
   知床五湖のガイド制度導入に対する利用者の評価
5. 15:20～15:40　谷　彩音（花卉・緑地計画学）
   都市近郊林利用者の動機と行動
   —道立自然公園野幌森林公園を事例として—
6. 15:40～16:00　藤 彰矩（花卉・緑地計画学）
   景観素材としてのエゾノリュウキンカの種子発芽
7. 16:00～16:20　永美 暢久（森林生態系管理学）
   都市近郊の自然公園におけるエゾアカガエルの季節的なハビタット選択
8. 16:20～16:40　石山 信雄（森林生態系管理学）
   北海道の小河川におけるニホンザリガニの生息量規定要因と微生息場特性
9. 16:40～17:00　末吉 正尚（森林生態系管理学）
   底生動物群集からみた河川景観の構造と機能
   —撹乱と季節変化に着目して—
10. 17:00～17:20　野村 直志（森林生態系管理学）
    ダムによる流量調節が河川の植物群落に及ぼす影響について
11. 17:20～17:40　岸田 春香（森林生態系管理学）
    治山ダム切り下げ工事に伴う物理環境の変化と植物の応答

Ｎ２１　９：００－１４：４０　応用分子生物学
（応用分子生物学講座主任　木村　淳夫）

1. 9:30～ 9:45　志摩　恭子（応用分子昆虫学）
   バキュロウイルス遺伝子の発現が哺乳動物細胞に与える影響について
2. 9:45～10:00　荒谷　恵梨子（応用分子昆虫学）
   バキュロウイルスの攻撃が哺乳動物細胞に与える影響について
3. 10:00～10:15　佐藤　開（応用分子昆虫学）

バキュロウイルス感染細胞におけるウイルス DNA および宿主ヒストンの局在解析

4. 10:15～10:30　小松　優太（応用分子昆虫学）
Cry39A の loop1 部分および ORF2-39A が蚊特異的殺虫活性に与える影響について

5. 10:30～10:45　友清　貴哉（応用分子昆虫学）
AeALP の Cry11Aa に対するレセプターとしての可能性

6. 10:45～11:00　村上　麻理亜（応用分子昆虫学）
毛翅目昆虫におけるカイコ Z 染色体座上遺伝子オルソログの検索

7. 11:15～11:30　原口　慶子（分子酵素学）
オオムギ（*Hordeum vulgare*）β-アミラーゼの澱粉吸着能および分解に関する研究

8. 11:30～11:45　小林　和之（分子酵素学）
Podospora anserina 由来α-glucosidase の機能解析

9. 11:45～12:00　田上　貴祥（分子酵素学）
テンサイα-glucosidase の基質特異性の改変

10. 13:00～13:15　田中　良幸（分子酵素学）
アズキ糖質加水分解酵素の構造と機能に関する研究

11. 13:15～13:30　牧　孝多朗（分子酵素学）
アノマー反転型加水分解酵素変異体のオリゴ糖合成反応に関する研究

12. 13:30～13:45　蝦名　績（分子生物学）
シロイヌナズナにおける上流ＯＲＦのコードするペプチドによる翻訳制御の探索と解析

13. 13:45～14:00　田中　悠貴（環境分子生物学）
DJ-1 と小胞モノアミン輸送体 2（VMAT2）の相互作用の解析

14. 14:00～14:15　梶　勇輔（環境分子生物学）
DJ-1 とプロリン生合成酵素 PYCR1 の相互作用の解析

15. 14:15～14:30　渡邊　翔太郎（環境分子生物学）
パーキンソン病原因因子 DJ-1 を標的とする治療薬候補化合物の同定と解析

Ｎ２１　１４：４０－１５：４０　食品科学（うち食品栄養学）
（食品栄養学　石塚　敏）

1. 14:40～15:00　岩谷　一史（食品栄養学）
Dextran sulfate sodium 誘導性大腸炎の発症における消化管粘膜バリア及び炎症性サイトカインの寄与

2. 15:00～15:20　落合　雄一（食品栄養学）
消化管粘膜における細胞傷害性 T 細胞のプロファイルと選択的集積機序の探索

Ｎ３１　１３：００－１６：４０　生物生産工学
（生物生産工学講座主任　柴田　洋一）

1. 13:00～13:20　相川　一馬（農業循環工学）
家畜ふん尿メタン発酵による稲わらサイレージのバイオガス化
2. 13:20～13:40　井口　陽介（農業循環工学）
有機性廃棄物を材料としたシーディング剤の硝化・脱窒機構
3. 13:40～14:00　上出　拓海（農業循環工学）
寒冷地水稲栽培におけるメタン発酵消化液の施肥設計
4. 14:00～14:20　安日　野枝（農業循環工学）
深根性緑肥作物による土壌硬盤層の改良
5. 14:20～14:40　宮田雄介（ビークルロボティクス）
菜種油のディーゼル燃料としての利用に関する研究
6. 14:40～15:00　平田瑞穂（作物生産システム工学）
ロータリ耕うん機の高精度耕深計測システム
7. 15:00～15:20　山下　浩平（食品加工工学）
エチレン通気環境下における加工用バレイショの萌芽抑制効果
8. 15:20～15:40　山本　将史（食品加工工学）
食品包装用バイオマスプラスチックの低温環境下における物性
9. 15:40～16:00　横田　麦穂（食品加工工学）
食品加工副産物を利用する発酵食品の発酵工程の改善
10. 16:00～16:20　王　春香（食品加工工学）
小麦製粉副産物のエタノール発酵における糖化工程の効率改善
11. 16:20～16:40　藤田　秀夫（食品加工工学）
北海道米の食味評価および理化学特性
－低アミロース系統品種を中心とした北海道米の品質特性－

Ｗ１０９　９：００－１８：００　生化学・微生物科学　（発表者２４名）
（食品安全・機能性開発学講座主任　横田　篤）

1. 9:00～ 9:20　大塚 圭輔（植物圏微生物学）
イネいもち病菌の非病原性遺伝子ＡＶＲ-Ｐｉａ遺伝子座の解析
2. 9:20～ 9:40　河原 愛（根圏環境制御学分野）
アーバスキュラー菌根菌の群集構造を規定する環境要因
3. 9:40～10:00　加藤 慎二（胃腸内圏微生物学）
腸内乳酸菌 *Lactobacillus gasseri* JCM1131^{T} におけるコール酸適応機構と細胞膜脂質組成の関連性
4. 10:00～10:20　川嶋 紘子（胃腸内圏微生物学）
新規二次胆汁酸生成菌 *Bacteroides intestinalis* AM-1 の 7-oxo 胆汁酸生成特性について

5. 10:20～10:40　坂本 寿代（機能性食品変換学）

Eubacterium cellulosolvens NE13 株由来セロビオースエピメラーゼ遺伝

子の単離および組換え酵素の諸性質

6. 10:50～10:10　田村 祥雄（機能性食品変換学）

シロイヌナズナ ADP-glucose pyrophosphorylase サブユニット Apl3 お

よび Aps1 のプロモーター解析

7. 11:10～11:30　中島　優（根圏環境制御学）

北海道におけるヨシの多様性解析

8. 11:30～11:50　日浦 平祐（機能性食品変換学）

光シグナルによる遺伝子発現制御を可能にする新規制御因子の探索

9. 11:50～12:10　横手 美彌（根圏環境制御学）

イネ科作物のアンモニア吸着木粉からの窒素獲得

10. 12:10～12:30　渡辺 和弘（機能性食品変換学）

プラスチドへのタンパク質輸送に関与する新規細胞質因子の探索

11. 13:10～13:30　大崎 裕子（根圏制御学）

酸性土壌におけるアルミニウム超集積性 *Melastoma* spp.の生育および

アルミニウム吸収におけるアーバスキュラー菌根共生の役割

12. 13:30～13:50　小野 泰之（生物化学）

酢酸菌 *Acetobacter xylinum* におけるバクテリアセルロース生合成遺

伝子群の機能解析と応用

13. 13:50～14:10　蔭山 千寿（根圏制御学）

酸性硫酸塩土壌におけるイネ科先駆植物内生窒素固定細菌の分子生態

14. 14:10～14:30　嘉藤 由衣（微生物生理学）

Corynebacterium glutamicum の H^+-ATPase 活性低下が呼吸関連酵素活

性に与える影響

15. 14:30～14:50　川並 かおる（応用菌学）

DFA III と *Ruminococcus productus* AHU1760 のシンバイオティクス効

果に関する研究

16. 15:00～15:20　坂本 健治（根圏制御学）

砂丘ポドゾルを用いて栽培した植物の窒素獲得に及ぼす窒素固定細菌

の影響

17. 15:20～15:40　澤田 和典（微生物生理学）

Corynebacterium glutamicum ピルビン酸キナーゼ欠失変異株のグルタ

ミン酸生産条件における代謝変化

18. 15:40～16:00　関口 幸恵（応用菌学）

新規なフィターゼ生産菌のスクリーニング

19. 16:00～16:20　THITICHOTRATTANA KORNKANOK

Introduction of the lft gene-carrying plasmid into a number of

levan-producing *Bacillus subtilis* strains and its possible effects on DFA IV production

20. 16:20～16:40　茶谷 美穂（応用菌学）
Glu-tRNA^{Gln} アミドトランスフェラーゼＣＡＢの活性阻害評価法とその応用

21. 16:40～17:00　中村 考志（根圏制御学）
ヒ素超集積植物モエジマシダのヒ素ストレスに対する代謝応答

22. 17:00～17:20　花岡 賀子（基礎環境微生物学）
Exiguobacterium oxidotolerans T-2-2 株の細胞外カタラーゼ生産及び H2O2 耐性とカタラーゼ局在性との相関

23. 17:20～17:40　村上 佑太（生物化学）
傷害応答性タバコ Myb 遺伝子の機能解析

24. 17:40～18:00　桑原 亜希（応用菌学）
Arthrobacter nicotinovorans 23-0-11 が生産するカドミウム遊離プロテアーゼの特性について

２月１５日（月）

Ｓ２１　９：００－１６：００　畜産科学　（発表者１４名）
（家畜生産生物学講座主任　中村　富美男）

1. 09：40－10：00　柴垣 佳秀（家畜改良増殖学）
マウス 2-cell block 胚の初期発生制御に関する研究

2. 10：05－10：25　内堀 寛之（家畜栄養学）
グルコン酸およびメチオニンアナログが子豚の腸内環境におよぼす影響

3. 10：25－10：45　渡部 優（家畜栄養学）
カシューナッツ殻液がヒツジルーメンの真性およびメタン細菌叢におよぼす影響

4. 10：55－11：15　佐藤 悠二（畜牧体系学）
放牧泌乳牛の季節別併給飼料給与法に関する研究

5. 11：15－11：35　室田 哲明（畜牧体系学）
林間放牧下の北海道和種馬における養分摂取に及ぼす林床植生の影響

6. 11：35－11：55　遠藤 まり絵（畜牧体系学）
北海道和種馬群の類型化と歩行運動のキネマティクス解析

7. 13：00－13：20　石橋 美佳（食肉科学）
ミオスタチンが線維芽細胞の増殖および細胞外マトリックス産生能に及ぼす影響

8. 13：20ー13：40　藤井 亮二（食品素材開発学）
羊肉摂取による体熱産生亢進作用に関する研究

9. 13：45ー14：05　石堂 拓也（機能性食品変換学）
Aspergillus oryzae が産生するホエイタンパク質分解性プロテアーゼの解析

10. 14：15ー14：35　土方 彩子（食品素材開発学）
家畜タンパク質由来ペプチドが線維芽細胞のコラーゲン代謝に及ぼす影響

11. 14：35ー14：55　安倍 恵（食品素材開発学）
軟骨コラーゲン分解物が間葉系の培養細胞に及ぼす影響

12. 14：55ー15：15　八城 雄太（食品素材開発学）
フィブリンの細胞培養基剤としての利用性

13. 15：20ー15：40　高木 健一（副生物科学）
腎由来コラーゲンの細胞培養基質としての特性

14. 15：40ー16：00　川崎 僚一（副生物科学）
骨髄由来間葉系幹細胞の継代および凍結保存に伴う変化
-細胞外マトリックスの老化抑制作用-

Ｓ３１　１３：００－１６：００　共生農業資源経済学　（発表者６名）
（共生農業資源経済学講座主任　飯澤　理一郎）

1. 13:00～13:30　近藤　真人（農業経営学）
産地再編期におけるタマネギ生産の組織的対応に関する考察

2. 13:30～14:00　福田 洋介（開発経済学）
穀物の国際価格の上昇がわが国農業生産に及ぼす影響

3. 14:00～14:30　高津　朱里（開発経済学）
セネガルの農村開発における組織化とその有効性

4. 14:30～15:00　棚橋　知春（協同組合学）
都市近郊玉ねぎ産地における農協共販体制変遷の要因の実証的分析
－栗山町を事例として－

5. 15:00～15:30　村田 均（食料農業市場学）
日本におけるCSAの存立構造
－北海道夕張郡長沼町メノビレッジ長沼を事例に－

6. 15:30～16:00　片岡　幸治（水産資源経営学）
国内冷凍すり身メーカーの存在形態と存立条件

Ｎ１１　９：００－１２：００　有機化学　（発表者９名）
（バイオマス転換学講座主任　鍋田　憲助）

1. 9:00～ 9:20 北岡 直樹（生物有機化学）
ジャスモン酸類縁体を用いた生物活性機構の解明
2. 9:20～ 9:40 佐藤 千鶴（生物有機化学）
傷害応答時におけるジャスモン酸の代謝および移動に関する研究
3. 9:40～10:00 落合 由佳（化学生物学）
グアノシン 5'-二リン酸 3'-二リン酸（ppGpp）の葉緑体遺伝子転写制御に関する研究
4. 10:00～10:20 塚田 耕平（化学生物学）
植物病原菌 *Lasiodiplodia theobromae* におけるジャスモン酸生合成に
関する研究
5. 10:20～10:40 西垣 清志（化学生物学）
アサガオのアレンオキシドシンターゼのクローニング及び機能解析
6. 10:55～11:15 佐藤 文彦（木質生命化学）
Tautomycetin の合成研究 ―C1'-C7'および C11-C18 セグメントの構築
7. 11:15～11:35 小山 知朗（生態化学）
赤かび病菌産生毒素 zearalenone の生合成制御に関する研究
8. 11:35～11:55 前田 麻起子（生態化学）
植物色素ベタレインの活性窒素消去能と植物組織内での機能性に関する研究
9. 11:55～12:15 竹田 久隼（生態化学）
東南アジア熱帯泥炭地の N2O 放出細菌に関する研究

Ｎ１１　１３：００－１６：２０　食品科学（食品栄養学を除く）
（食資源科学講座主任　川端　潤）

1. 13:30～13:50 家山 智大（応用生物科学専攻・食品機能化学分野）
インドネシア産薬用植物中のマルターゼ阻害成分の探索
2. 13:50～14:10 大森 晶奈（共生基盤学専攻・機能性食品健康科学分野）
魚油、モノエン酸、中鎖脂肪酸摂取時の組織脂肪酸組成に与える影響
3. 14:10～14:30 瀬戸菜実子（共生基盤学専攻・機能性食品健康科学分野）
アミノ酸による膵タンパク質合成翻訳開始を制御する細胞内シグナル伝達機構の解明
4. 14:30～14:50 野島 伊世里（共生基盤学専攻・機能性食品健康科学分野）
腸上皮杯細胞の表面糖鎖への短鎖脂肪酸の作用
5. 14:50～15:10 持田泰佑（共生基盤学専攻・機能性食品健康科学分野）
食品ペプチドによる GLP-1 分泌と血糖上昇抑制に関する研究
6. 15:10～15:30 大久保卓磨（生命科学院・生命システム科学コース・消化管生理学研究室）

２型糖尿病モデルマウスを用いた Lactobacillus plantarum No.14 株の抗肥満作用の解析

7. 15:30～15:50　後藤　悠（生命科学院・生命システム科学コース・消化管生理学研究室）

Comparison of dietary fructo-oligosaccharide effect on dextran sodium sulphate-induced colitis in mice fed commercial and purified diets（非精製市販飼料および精製飼料を摂取したマウスにおけるデキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎にフラクトオリゴ糖が及ぼす影響の比較）

8. 15:50～16:10　秦枝里奈（生命科学院・生命システム科学コース・消化管生理学研究室）

消化管に定着した Candida albicans が経口免疫寛容の成立を阻害するメカニズムの解析

Ｎ２１　９：００－１２：００　地域環境学　（発表者９名）
（地域環境学講座主任　長谷川　周一）

1. 9:05～ 9:25　栗原 望（土地改良）
半乾燥地における灌漑農業と地域環境に関する研究
2. 9:25～ 9:45　藤井 大輔（土地改良）
農業地域の水土利用再編と水文環境に関する研究
3. 9:45～10:05　佐伯寅彦（生物環境物理学）
自然氷を利用した農産物貯蔵庫の熱的設計に関する研究
4. 10:05～10:25　石井誠一郎（土壌保全学）
ラオス北部焼畑地域における土壌生態系の養分収支
5. 10:25～10:45　坂本健三郎（土壌保全学）
美唄泥炭地における土壌中の温室効果ガスの挙動
6. 11:00～11:20　山田　浩之（土壌学）
様々な土地利用の熱帯泥炭地における温室効果ガス放出量
7. 11:20～11:40　田中 祥人（農林環境情報学）
サロベツ湿原の地下水溶存態有機炭素の動態と生成要因
8. 11:40～12:00　鬼頭宏幸（農林環境情報学）
サロベツ湿原における泥炭の分解過程に関する研究
9. 12:00～12:20　福川智哉（生物環境情報学）
衛星データを用いた日本と中国におけるタンチョウ生息地の環境変遷に関する比較研究

Ｎ２１　１４：４０－１６：２０　生物生態・体系学　（発表者５名）
（生物生態・体系学講座主任　高橋　英樹）

1. 14:40～15:00　多田紘一郎（動物生態）

働かないハタラキアリはなぜ働かないのか？Individual-Based Model を用いた疲労の影響の検証

2. 15:00～15:20　簑島悠介（昆虫体系）
Larval morphology of the tribe Hydrophilini of Japan (Coleoptera, Hydrophilidae).（日本産ガムシ族の幼虫形態（鞘翅目・ガムシ科））

3. 15:20～15:40　加川敬祐（植物生態・体系学）
日本産チョウジソウ（*Amsonia elliptica*）の分子系統地理

4. 15:40～16:00　金澤美希（共生社会生物学）
社会性のケナガスゴモリハダニ（*Stigmaeopsis longus*）　が示す糸を用いた巣内清掃行動とその効果